

- 東京乗合自動車現業員會
- 東京出版労働組合
- 日本運輸労働組合
- 關東木材産業労働組合
- 關東新聞従業員組合
- ガラス産業労働組合

提出

主文

理由

我等は、本大會の名に於て、帝國主義ブルジョアジの支柱たる日本労働クラブに絶対反対し、これが徹底的粉砕を期す。

一、日本労働俱樂部は労働組合戦線の統一に於て組織された。だが、彼等は、國際労働會議を支持する右翼團體のみを以て結成し、爾餘の團體の協働を拒絶してゐる。しかも、労働大家の要望する強大なる統一戦線たらしめるのではなく、クラブといふ程度の機關にすしかえた。

他方に、全國労働の市従、東電、瓦斯、蒲田労安等々の友團團體を失ひ、自ら提唱したる全國労働組合會議準備會を破壊し去つた全國労働内部は、クラブ賛成と反対の二大潮流にわさわいせんとするに至つた。日本労働クラブは労働組合戦線の眞の統一を期するとも、益々分裂の危機を激化し、全國労働の體面と地位とを劣悪ならしめる。

二、日本労働クラブは反共主義を目標とする、總同盟その他右翼團體との協働として生れた。全國労働は日常闘争題目に於て協働す

る限りに於ては如何なる團體とも協働することが出来るし、左右をとはず、大家と大家との協働によつて、大家闘争を以て推し起すべきであるが、國際労働會議を支持し、反共主義の旗の下になされた、機關に對する協働は、全國労働の傳統的精神に反し、六月一日中央委員會の決議に反する。

三、賛成論者は字句の「自主的解釋」を以て屢々言説をなして來た。だが、(残念なことに)は)クラブ第一回の正式會合に於て、「自主的解釋に對する抗議文が提出された。そして、今後自主的解釋まかりならぬ」とされた。

理論上、實際上の敗北を理由づけ正常化さんとする、この怪しげなる自主的解釋は、日本労働クラブに参加する限りに於ては不能にされてゐる。

四、第三期恐慌、特に世界戦争の危機に直面する日本帝國主義ブルジョアジが、自らの支柱としての社會ファシスト團を統一し強化せんとするは明白である。

日本労働クラブは、少なくとも、その一部に於て労働階級の陣營を分裂せしめ、その一方を支配階級へ賣りつけ、帝國主義ブルジョアジの支柱たらしめんとする強力なる陰謀を含み、それは若々實行されてゐる。

實行方法

一、全國労働は即時脱退を聲明し。

二、産業別線に刷新し統一戦線のために奮闘すること。

三、日本労働クラブの正體をバクロしそれに参加するダラ群共を放逐するため宣傳煽動。

四、社會ファシストの社會的性質の過少評價と戦ひ彼等の裏切者たることをバクロし宣傳すること。

五、全國大衆黨の大會に於てクラブ粉砕を決議せしめること。

六、スローガン

資本家地主の手先日本労働クラブを粉砕せよ!